

編集後記

遅くなりましたが、2015 年 12 月号をお届けします。今回は思いかけずたくさんの方からご寄稿いただき、多彩な内容となりました。まず、巻頭言は受田先生から、「FIA の過去・現在・未来～バックキャスティングの勧め～」と題していただきました。バックキャスティングは未来から現在への外挿ですが、現在の FIA はそれに耐えるものになっているのか、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

指標はアクア・ラボの下田様にお願いしました。FIA 用機器販売の振り返りながら現状と今後の発展に関してご意見をいただきました。

総説は今任先生のグループより、炭素量子ドット、コンパクトディスク型の FIA 装置に関してご寄稿いただきました。また、ミニレビューとして、塚越先生が長年研究されている細管中での相分離を応用するクロマトグラフィーについてレビューしていただきました。

研究論文は、竹内先生よりイオンクロマトグラフィーに関する論文を掲載しました。また、田中先生からはフローレイショメトリによるハイスループット滴定に関して解説していただきました。

FIA フロントラインは飯田先生よりフローインジェクション分析を用いた阻害剤評価方法についてレビューしていただきました。トピックスは正留先生のグループより電位差ペーパー電極に関する最近の展開に

ついて解説していただきました。また、足立先生からは pH により結合状態の変化するナノ粒子について解説をいただきました。

報告記事として、石松先生から 7 月にブラハで開催された Flow Analysis XIII の参加報告について、Christian 先生からは 12 月ホノルルで開催された Pacifichem2015 での FIA セッションの様子について、さらに、樋口先生からは、2015JAIMA セミナーの様子について説明していただきました。

さらに今回は報告記事として、新刊の紹介 2 件（「フローインジェクション分析」、「基礎分析化学」）も掲載しました。学会情報はいつものように竹内先生にお纏めいただきました。

最後に 2014 年度から始まりました JFIA Selection 賞について、少し書かせていただきます。今回は本号掲載の竹内先生、田中先生の論文が受賞されました。今後も続けていきたいと考えていますので、来年も受賞を目指してふるってご投稿ください。

以上、皆様のご協力の下、今回も充実した内容の本ができましたことをうれしく思います。今後とも、近況を含め、皆様からの積極なご寄稿をお待ちしています。

なお、私の編集委員長としての仕事は今回が最後となりました。次年度からは徳島大学の田中秀治先生がご担当となります。これまでのご協力、ありがとうございます。

JFIA 編集委員長 長岡